

## 学校と地域の ステキな関係

区立学校では、地域のみなさんが学校と連携し、子どもたちの生きるための力を育む大きな支えとなっています。図書室の整備や読み聞かせ、放課後学習の補助など活動内容はさまざま。江原小学校の学校支援ボランティア「えはらっこサポーター」代表の松本玲子さんに伺いました。

☆学校支援ボランティアについて詳しくは、学校再編・地域連携係  
☎(3228)5548・FAX(3228)5679へ

### この活動を始めたきっかけはなんですか

メンバーの大半が  
在校生や卒業生の保護者  
なんですよ！

えはらっこサポーター  
代表 松本玲子さん

子どもが在校生だった当時、先生たちが忙しそうだなと感じていました。校長先生からも、子どもを見守る大人の目が必要だが、学校の中に手の空いた大人が少なくなっていると伺い、お手伝いを申し出たのがきっかけです。

#### 「猫の手」になれたら

例えば、本のラベル貼りや健康診断の記録付けなどは、誰にでもできますよね。こういった作業を手伝うことで、先生はもっと子どもたちとの時間をもてるし、教育に専念できる。「学校からの小さなニーズ」に気軽に応える「猫の手」になれたら、そう考え、平成28年4月に「えはらっこサポーター」を立ち上げました。「江原小を支えたい」という多くの方の善意とご理解があつて続いています。

#### 現在の会員数は26人

在校生・卒業生の保護者が大半ですが、大学生も2人参加しています。親が活動している様子を間近で見ていた子どもたちが、卒業後に自然と手伝ってくれることも。それぞれのペースで、できることをできる時に無理なく楽しんで活動しています。



▲図書館指導員の先生からの依頼内容は交換ノートで確認し、作業

### 具体的にどのような活動をしているのですか

定例的な活動は、月2、3回行う図書室の整備です。毎回、8～10人程度が集まり、学級文庫用に図書館から借りた本を返却する際のチェックや本棚の整理などを行っています。図書室内の装飾も活動の要。段ボールなどを使った手作りの飾り等、工夫して展示物を作っています。物語の一場面や登場人物の絵を描いた額縁を飾った際は、図書館指導員の先生が本の紹介文を添えてくれました。子どもたちが本に親しむきっかけになったらうれしいですね。中綿の代わりにシュレッダーくずを利用した座布団も手作り。読み聞かせの時間に子どもたちが利用しています。

#### 要望に応じた手助けを

決まったことだけではなく、学校の要望に

応じて、さまざまな手助けをするのが、この会の特徴です。相談室の飾り付けや衣装・小物作り、保護者会の際の子どもたちの見守りなど、お手伝いの内容も多岐にわたります。

学校公開日の保護者受付も引き受けているので、参観に来る方にも顔見知りが増えました。



▲座布団作りの様子



### やりがいを感じるのはどんな時ですか

えはらっこサポーターの  
みなさん！



江古田区民活動センターで7月に行う「平和のバトン」事業では、2年前から地域の区立小中学校や図書館と協力して子どもたちのためにブックリストを作り、ロビーに展示していますが、この企画や制作を私たちが担当しています。

学校での子どもたちが本に親しみをを感じるような空間づくりの作業風景を見た地域の方に「学校もこんな風になってたら楽しいわね」「どうやって作っているの」などとたくさん声を掛けていただき、とても励みになりました。

学校と地域が緩やかにつながる窓口の一つになれたらうれしいです。

#### 広がる知り合いの輪

また、活動を通じて、子どもたちが自然と顔を覚えてくれ、スーパーで声を掛けてくれることも。一緒にいるお母さんにお子さんが「図書室の人だよ」と話してくれることで、知り合いの輪が広がっています。学校でも地域でも見知った大人が増えれば、困った時に声を掛けやすく、子どもたちも安心できますよね。

#### これからも応えていきたい

この会を通して、お子さんが卒業しても、そのまま地域の大人として学校に関わる人が増えています。これからも「猫の手」として学校の「困った」に応えていきたいと思います。

### 西中野小学校の取り組み

#### ぜんりよく塾



週4回放課後に実施している学習支援教室。現在は、池亀先生を中心に10人のボランティアが宿題やプリント学習を支援しています。「個性に寄り添いながら、子どもたちと信頼関係を築いています」と、元PTA会長でもある種市さん。次世代育成委員の東出さんは、「この学校の地域には、協力してくれる方が多いのが特徴」と話してくれました。取材時は他に、鷺宮ことぶき会の浦志さん、元小学校教諭の石田さんが参加していました。

### 緑のカーテン教室



毎年、地域の人たちとの協働作業で育てている緑のカーテン。5月23日、中野区環境井戸端会議のみなさんと一緒に3・4年生がゴーヤの苗を植えました。代表の

鈴木さんが、学校に掛け合い始めたこの取り組みは、今回で13回目。今ではすっかり定着しています。メンバーの中には、在校生のおじいさんも。子どもたちから、「大変だったけど、ゴーヤがとてもおいしかった」といった手紙をもらうこともあるそうです。

### まだある地域との連携

「全力サポーター」の放課後学習室や読み聞かせ、マラソン大会の見守りなど、地域のみなさんと学校がさまざまな形で連携し、子どもたちを育んでいます。



▲放課後学習室は週2回開催

### 緑野中学校の取り組み

#### 花と緑のボランティア



2年前、学校から校内南庭の花壇の整備を手伝ってもらえないだろうか、と相談され、石久保さんが中心となりグループを結成。地元丸山町会の花好きな人たちが集まり活動しています。自宅で増えすぎた苗を持ち寄り、花壇作り。正門前の植栽も手入れをしており、訪れた人の目を楽しませています。「広い場所で好きな園芸ができるので、私たちも楽しんで活動しています。学校にも喜んでもらえて一石二鳥ですね」と、みなさんが話してくれました。